

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	固定資産（土地）評価事業			会計	款	項目	大	小
政策	06	公・民パートナーシップによる構想実現と効率的、効果的行財政運営（行政の充実）		主管課	資産税課			
施策	6-2	健全で効率的な行財政運営		主管課長	小島 敏明			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	土地及び当該土地の納税義務者	意図	固定資産評価基準に基づいた、適正で均衡のとれた固定資産（土地）の評価を行うため、基礎資料を作成・整備する。
事業内容	土地評価の均衡化・適正化を図るため、①価格形成要因分析②用途地区、状況類似地域及び標準宅地の選定業務③路線設定の検討及びデータの作成④土地価格比準表の検討⑤路線価評定⑥路線価図を作成する。			
事業開始から現在までの状況変化	固定資産評価における適正で均衡のとれた評価を行うに当たり、固定資産評価基準に準拠した評価替えの基礎資料を作成するための委託料を計上し、平成27年度から平成29年度までの継続費を設定した。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	土地評価総筆数	90,784	91,474	92,179	筆	↑↑↑	実測値
②	路線価本数	8,260	8,442	8,683	本	↑↑↑	実測値	
③	標準宅地数	252	283	312	地点	↑↑↑	実測値	
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）	
事務事業のコスト		平成26年度	平成27年度	平成28年度	事務事業の進捗に伴い、路線価本数、土地評価総筆数は増加傾向にある。このため、平成30年評価替えに向けて、標準宅地312地点の鑑定評価を実施している。			
事務事業の総コスト(a=b+c)		13,105,000	13,880,400	14,187,400				
事業費(b)(円)		6,195,000	6,350,400	7,322,400				
うち一般財源		6,195,000	6,350,400	7,322,400				
職員給与と費(c)(円)		6,910,000	7,530,000	6,865,000				
人役・職員(人)		1.00	1.00	1.00				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
				コストの削減	A 削減の余地はない	
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	平成30年度評価替えの第2年度に当たるため、路線要因調査及び路線の価格形成要因の調査を行い、土地価格比準表の原案を作成する。	③取組の課題	今後も現状解析をしっかりと行い、路線データ及び価格形成要因データを取得し、土地価格比準表の原案を作成する。
②今年度(H28)に実施した取組	市内全ての路線（街路）について、路線要因データの見直し及び標準宅地・路線の価格形成要因の調査を行った。その上で、これらの要因についての分析を行い、土地価格比準表の	④今後の改善計画	平成30年度評価替えにおける第3年度は、土地価格比準表の作成と連動して、路線価算出のシュミレーションを繰り返し、かつ、検証を行った上で適正な路線価を評定する。